

| Syllabus Id | syl-082015 | | |
|--|---|------------------------------------|------------------------------------|
| Subject Id | sub-0820030 | | |
| 作成年月日 | 20080321 | | |
| 授業科目名 | 哲学 Philosophy | | |
| 担当教員名 | 野澤正信 | | |
| 対象クラス | 全学科5年生 | | |
| 単位数 | 2履修単位 | | |
| 必修/選択 | 必修 | | |
| 開講時期 | H20通年 | | |
| 授業区分 | 人文・社会科学・語学等 | | |
| 授業形態 | 講義 | | |
| 実施場所 | 機械工学科棟4F M5HR、共通棟3FE5HR、電子制御棟2FD5HR、高学年棟2FS5HR、4FC5HR | | |
| 授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味) | | | |
| <p>哲学とは愛知、知を愛し求めることで「知の探究」である。本教科ではディベートによって学生が自ら「知の探求」を行う。すなわち、さまざまに意見が分かれる現代の諸問題について、学生が自ら想像力を駆使して解決に必要な情報を集め、自分独自の意見を実証的に構成し、それを周りの人に論理的に説明し説得する力を身につける訓練を行う。目的は、多面的考察力と問題解決能力、及び倫理観を養うことである。ディベートで扱われるさまざまな現代社会の難問は明確に定義されていない。学生は課題として、そのような漠然とした問題を多面的に考察し安全で平和な形で解決できる形に設定しなおし解決策を実証的論理的に構成することが求められる。この訓練を通して学生が多面的考察力を養い、実証的で確実な知を論理的に構成する問題解決方法を修得するとともに、科学技術の安全で平和な利用をめざす倫理的な態度を育むことが本教科の目的である。</p> | | | |
| 準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識) | | | |
| 地理、歴史 | | | |
| 学習・教育目標 | Weight | 目標 | |
| | | A | 工学倫理の自覚と多面的考察力の養成 |
| | | B | 社会要請に応えられる工学基礎学力の養成 |
| | | C | 工学専門知識の創造的活用能力の養成 |
| | | D | 国際的な受信・発信能力の養成 |
| | | E | 産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力 |
| A 漠然とした問題を自ら明確に定義して異なる視点から多面的に考察できる力の養成 | | | |
| 学習・教育目標の達成度検査 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度内8テーマについて目標達成度試験(小論あるいはプレゼンテーション)によって行う。 プログラム教科目の修得と目標達成度試験(小論あるいはプレゼンテーション)及び学生自身による自己評価の合格、をもって当該する学習・教育目標の達成とする。 目標達成度試験(小論あるいはプレゼンテーション)の実施要領は別に定める。 | | | |
| 授業目標 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> プログラム目標に合致した学科目標: 現代社会の諸問題について多面的に考察し、判断根拠となる情報を的確に集め、根拠に基づく説得力のある議論を構築できること 学科目標に合致した授業目標 (1)与えられた漠然とした問題を自ら考えて解決可能な形に定義しなおす能力をもつこと。 (2)一つの問題を異なる視点から評価し判断する多面的に考察できること。 (3)適確な調査によって問題解決に必要な資料を集められること。 (4)収集した情報を活用して実証的、論理的に議論やレポートが構成できること。 | | | |
| 授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できます。) | | | |
| 回 | メインテーマ | サブテーマ | 参観 |
| 第1回 | 前期オリエンテーション | プログラムの学習・教育目標・スケジュール・評価方法・基準等の説明 | |
| 第2回 | | 哲学とは何か(愛知とソクラテスの方法の説明) | |
| 第3回 | | ディベート・レポートの方法の解説と初回ディベートの分担決定 | |
| 第4回 | | 1 エネルギー問題概要説明(エネルギーと環境の問題) | |
| 第5回 | | 「原子力 対 自然エネルギー」ディベート | |
| 第6回 | | 前週ディベートの総括と次回の分担決定 | |
| 第7回 | | 2 消費税問題概要説明(市民社会と税制の問題) | |
| 第8回 | | 「消費税率アップの是非」ディベート | |
| 第9回 | | 前週ディベートの総括と次回の分担決定 | |
| 第10回 | | 3 裁判員制度概要説明(司法への市民参加の問題) | |
| 第11回 | | 「裁判への市民参加の是非」ディベート | |
| 第12回 | | 前週ディベートの総括と次回の分担決定 | |
| 第13回 | | 4 食糧自給問題概要説明(食品の安全及び都市と地方のバランスの問題) | |
| 第14回 | | 「食糧自給 対 輸入」ディベート | |
| 第15回 | | 前週ディベート及び前期の総括 | |

| | | | |
|---|--|---------------------------|--|
| 第16回 | 後期オリエンテーション | 後期ディベートテーマ解説と分担決定 | |
| 第17回 | | 5 死刑問題概要説明(民主制と司法の問題) | |
| 第18回 | | 「死刑の是非」ディベート | |
| 第19回 | | 前週ディベートの総括と次回の分担決定 | |
| 第20回 | | 6 18歳成人問題概要説明(成人と少年の境界問題) | |
| 第21回 | | 「18歳成人の是非」ディベート | |
| 第22回 | | 前週ディベートの総括と次回の分担決定 | |
| 第23回 | | 7 学力問題概要説明(学力・教育問題) | |
| 第24回 | | 「授業時間増の是非」ディベート | |
| 第25回 | | 前週ディベートの総括と次回の分担決定 | |
| 第26回 | | 8 投資問題概要説明(投資と金融教育の諸問題) | |
| 第27回 | | 「投資 対 貯蓄」ディベート | |
| 第28回 | | 前週ディベート及び後期の総括 | |
| 第29回 | | 情報の収集と評価の方法について | |
| 第30回 | | 修了後の展望、授業アンケート | |
| 課題 | | | |
| <p>レポート： ディベートで扱う問題についての賛否両論、および概要説明での報告内容のまとめ 提出期限： ディベート議事録は1週間後、その他は発表後2週間後 提出場所： 授業終了後の教室、あるいは教員室(管理棟3F)。議事録はBlackborad掲示板に書き込む。 オフィスアワー：教員室(管理棟3F)において金曜午後2時から5時までは比較的对応できる</p> | | | |
| 評価方法と基準 | | | |
| 評価方法： | | | |
| <p>(1)与えられた漠然とした問題を自ら考えて解決可能な形に定義しなおすことができるかどうかを (2)教室での発表・報告もしくはレポートの作成で (3)別にネットで公表する評価基準によって判定し (4)成績に反映させる。</p> | | | |
| <p>(1)一つの問題を異なる視点から評価し判断する多面的に考察できるかどうかを (2)賛否両論のレポートの作成で (3)別にネットで公表する評価基準によって判定し (4)成績に反映させる。</p> | | | |
| <p>(1)適確な調査によって問題解決に必要な資料を集められるかどうかを (2)教室での発表・報告もしくはレポートの作成で (3)別にネットで公表する評価基準によって判定し (4)成績に反映させる。</p> | | | |
| <p>(1)収集した情報を活用して実証的、論理的に議論を構成し説得力ある説明ができるかどうかを (2)教室での発表・報告もしくはレポートの作成で (3)別にネットで公表する評価基準によって判定し (4)成績に反映させる。</p> | | | |
| 評価基準： | | | |
| 調査結果の発表とディベートの評価 40%、 レポート 40%、 授業態度(ノート) 10%、 学生自身による自己評価 10% | | | |
| 教科書等 | 使用しない。必要に応じてプリントを配布する。 | | |
| 先修科目 | 地理、歴史 | | |
| 関連サイトのURL | http://blackb.numazu-ct.ac.jp/webapps/login/ (E-learning System, Blackborad) http://user.numazu-ct.ac.jp/~nozawa/nozawahp.htm (沼津高専・教養科・哲学) | | |
| 授業アンケートへの対応 | 板書について指摘があるので、改善につとめる。 | | |
| 備考 | <p>1.提出された課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。</p> <p>2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。メールアドレス： nozawa@numazu-ct.ac.jp</p> | | |